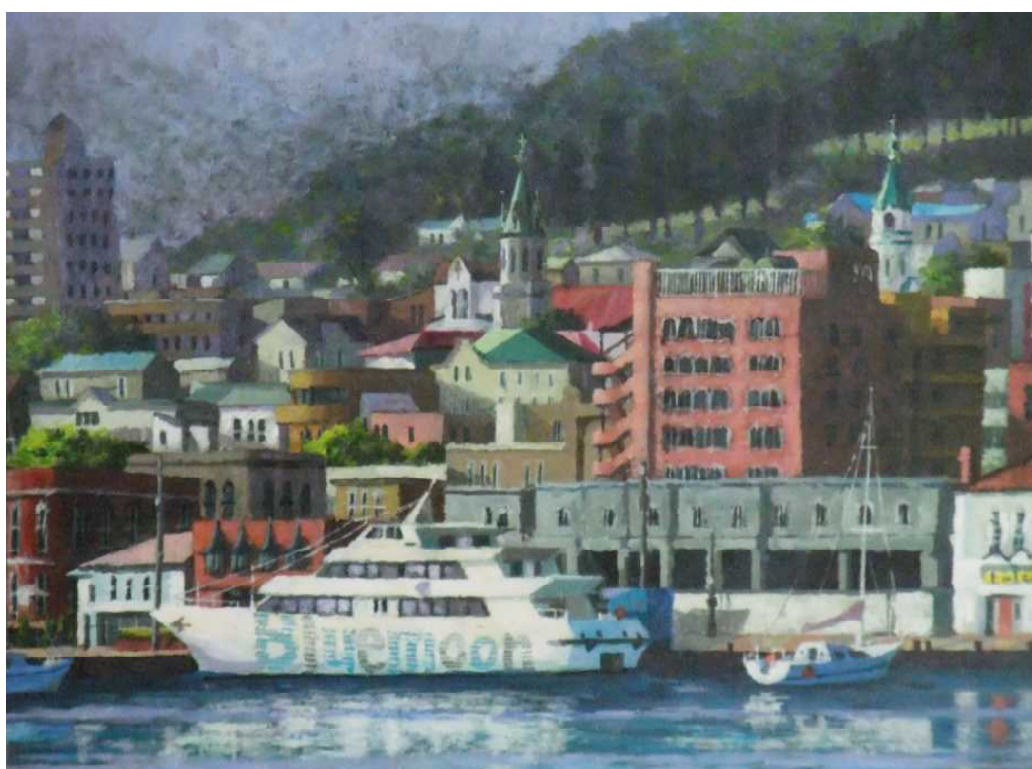


平成27年度 函館市学習状況調査実施報告書

～最後までやり切る指導の確実な実現を目指して～



函館市教育委員会
函館市学力向上プロジェクト推進委員会

刊 行 に 寄 せ て

我が国においては、少子高齢化やグローバル化、科学技術の進展など、今後ますます大きな変革が予想されます。こうした時代を生きる子どもたちには、自らの将来に夢をもち、その夢に向かって学び続ける力と、社会の変化に適切に対応できる確かな学力を培うことが重要であります。

平成27年8月に取りまとめられた中央教育審議会教育課程企画特別部会の論点整理において、①習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。②他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。③子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの過程が実現できているかどうかなどの視点で、指導方法を不断に見直し、改善していくことの重要性について述べられています。

教育委員会におきましては、函館市の学校教育推進の指針「アプローチ」において、「探究型の授業」を提案し、学力向上に向けた授業改善の推進に努めてまいりました。

「探究型の授業」はアクティブ・ラーニングにつながる重要な授業方法であり、一層の充実が必要であると考えております。

本報告書には、各学校において「探究型の授業」（アクティブ・ラーニング）を目指した授業改善がより一層充実するよう、特集として掲載しております。

各学校におきましては、本報告書を子どもたちの学力向上に向けた授業改善に積極的に活用されますよう期待しております。

終わりに本報告書の刊行に当たって、校長会および教頭会をはじめ、市内各小・中学校並びに「函館市学力向上プロジェクト推進委員会」の皆様には、多大なご協力をいただいたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成28年3月

函館市教育委員会

教育長 山本真也

特集

「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)を目指して

社会の変化を予測することが困難な時代を迎え、子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」へと質的な転換を図ることが求められています。

この「アクティブ・ラーニング」は、全く新しい方法や手法を取り入れていこうとするものではなく、むしろ、これまでの実践に学び、そのよさを確実に広げ、より一層の授業改善を目指していくことにあります。

こうしたことから、函館市教育委員会では、「アクティブ・ラーニング」につながる授業を構築していくためには、問題解決的な学習を通じて、目標の実現を図る「探究型の授業」に取り組むことが大切であると考え、本特集ページにおいては、「探究型の授業」について、その基本となる各指導過程段階における指導のポイントを掲載しました。

授業づくり  P4へ

「めあて」の段階の工夫  P6へ

「よそう」の段階の工夫  P7へ

「たしかめ」の段階の工夫  P8へ

「まとめ・振り返り」の段階の工夫  P11へ

工夫・充実

「アクティブ・ラーニング」へ



主体的・協働的に学ぶ学習を支える大切な要素の1つは・・・

支持的風土のある学級づくり  P2へ

1 支持的風土のある学級づくり

(1) 支持的風土のある学級とは

子どもが主体的に考え、他者とかわり合う学習が充実するためには、支持的風土のある学級づくりが大切です。

主体的に取り組む

信頼し、支え合う

認め合う

協力し合う



励まし合う

(2) 支持的風土のある学級づくりに向けて

学級は共感的な人間関係をはぐくむ場所です。一人ひとりが存在感をもち、集団を創り上げていく中でお互いの絆を深め、自己実現を図っていけるよう、支持的風土のある学級づくりに努めることが大切です。

① 道徳の重要性

支持的風土のある学級を目指していくためには、道徳教育の充実を図ることが大切です。

道徳教育は、「道徳の時間」で行うのはもちろんですが、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はその中核的な役割を果たします。

道徳教育の充実を図ることによって、道徳的な心情のみならず、道徳的な判断力、実践意欲と態度などの道徳的実践力を育成し、道徳性を養うことができます。



教師と子ども、子ども同士の間関係の充実にもつながります。

② 支持的風土の学級づくりに向けたポイント

(ア) 互いが気持ちよく生活するための学級のルールについて、定期的にその状況を子どもたちと確認し合ひましょう。

【小学校高学年（例）】

(学習のルール)

- 1 生活時間
 - ・学習の準備をしてから休み、チャイムが鳴る1分前には着席しましょう。
 - 2 あいさつ
 - ・気持ちよく授業が始められるように、元気にあいさつしましょう。
 - 3 発表
 - ・まっすぐ手を挙げ、大きな声で積極的に発表しましょう。
 - 4 姿勢
 - ・正しい姿勢で、真剣に授業に参加しましょう。
 - 5 学習用具
 - ・大切に扱い、忘れ物をしないように心がけましょう。
- (平成26年度函館市学習状況調査実施報告書より)

【中学校（例）】

(学習のルール)

◎ 授業時間を大切にしましょう。

- ・授業の2分前までに着席しましょう。
- ・時間と同時に挨拶しましょう。
- ・正しい姿勢で授業を受けましょう。
- ・次の授業の準備をしてから休憩に入りましょう。

◎ 授業に積極的に取り組みましょう。

- ・今日の「めあて」を意識して授業を受けましょう。
- ・自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・人の話をしっかり聞きましょう。

(平成26年度函館市学習状況調査実施報告書より)

(イ) 学習成果を貼り出したり、子どもたちのよさや思いの表れた掲示物を工夫したりするほか、授業を始める前に、ごみを拾う、机をそろえるなどの学習環境の整備をしたりして、教室環境を整えましょう。

- ・図工や習字作品、各種学習の足跡が分かる掲示（学級目標との関連を意識した掲示の工夫）
- ・教室内に子ども一人ひとりの名前がある掲示
- ・ノートの展示（変容や成長を意識した掲示） など

(ウ) 自尊感情や自己肯定感を高める協働的な学習場面を意図的に位置付けたり、教師が子どものよさを評価したりするなどして、学級の中に一人ひとりのよさを広げていきましょう。

- ・異学年交流の実施（下学年との関わり）
- ・地域の活動への参加
- ・係活動の工夫（すべての子どもが活躍できる場面の設定） など

(エ) Q-Uやアセスなどのアセスメントの手法を活用し、子どもの悩みやストレスのサイン、また、学級集団の状況を的確に把握しましょう。

(オ) 集会や学級活動などの時間を活用して、人間関係づくりを高める構成的グループ・エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを計画的に組み入れましょう。

2 授業づくり

(1) 問題解決的な学習の指導過程

問題解決的な学習を通して、課題解決に向けて、主体的・協働的に課題を解決していく「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)を充実させていくことが大切です。

め あて

授業のはじめに「めあて」をわかりやすい言葉で提示し、見通しをもたせましょう。



P6^

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、評価規準に基づいて、何を学ぶのか、学習のめあてをわかりやすく示すことが大切です。

よ そう

既習事項等と関連付けて、自分の考えをもたせましょう。



P7^

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、既習事項や生活経験などと関連付けて、自分の考えをもたせることが大切です。

た しかめ

学び合いの活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりさせましょう。



P8^

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、ペアやグループ、一斉などの活動を効果的に取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることが大切です。

ま とめ・
振り返り

「まとめ・振り返り」の活動を通して、授業で何が身に付いたのかが実感できるようにしましょう。

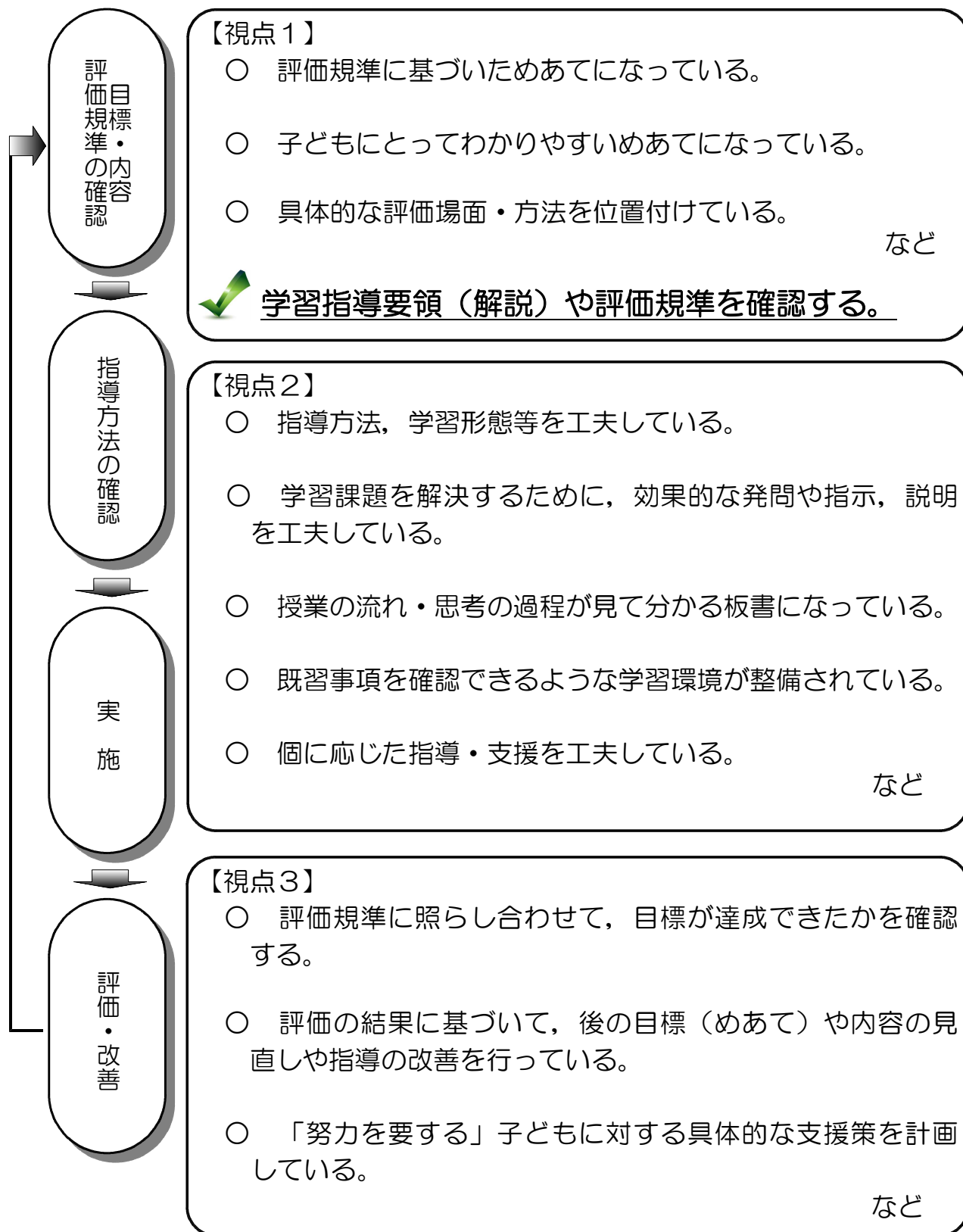


P11^

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、「めあて」と正対した「まとめ」を行うとともに、類題や発展的な問題などを効果的に取り入れ、「何がわかったか。」「何ができるようになったか。」を実感できるようにすることが大切です。

(2) 授業の準備・実施・評価の手順

子どもの意欲を大切にし、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行うためには、学習指導要領（解説）や評価規準に基づいて目標（めあて）・内容を設定するとともに、指導方法を工夫し、評価の結果に基づいて、指導の改善を行っていくことが大切です。



(3) 「めあて」の段階の工夫

子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行うためには、学習指導要領（解説）や評価規準に基づいて、学習のめあてをわかりやすく示すことが大切です。

第4学年 国語科学習指導案

(※ 省略)



【手順1】

学習指導要領（解説）の目標や内容（指導事項）に基づき、単元の目標を設定する。

【手順2】

単元の目標を踏まえ、単元の評価規準を設定する。

※ 国立教育政策研究所の【評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料】等を参考にする。

【手順3】

手順1、2を踏まえ、学習活動や1単位時間毎の具体的評価規準を設定する。

【手順4】

具体的評価規準を踏まえ、本時の目標や「めあて」を設定する。

- 1 単元名 テーマを決めて、本を紹介しよう
教材名 「ごんぎつね」
- 2 単元について (※省略)
- 3 単元の目標
 - 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。「読むこと」(2)ウ
 - 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。「読むこと」(2)オ
 - 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。「言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ(ア))

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・態度
<ul style="list-style-type: none"> ・読んで感じたことや考えたことなどを明らかにしながら、幅広く読書しようとしている。 ・文章を読んで感想をまとめたものを発表し合い、互いの感じ方や考え方のよさを認め合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読んでいる。(ウ) ・物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(イ(ア))

5 指導と評価の計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
(※ 省略)				
二	7 (本時)	・いたずらをしてから兵十に撃たれるまでのごんの気持ちを考える。	・前時までの学習をもとに、物語全体から、ごんの気持ちの移り変わりを見付けられるようにする。	・登場人物の行動や会話に着目しながら読み、ごんの気持ちの移り変わりに気付いている。【読む能力】

6 本時の学習

(1) 本時の目標


登場人物の行動や会話に着目しながら読み、ごんの気持ちの移り変わりに気付くことができる。(読む能力)

(2) 本時の展開 (7/14)

	学習活動	指導上の留意点	評価
めあて	1 前時までの学習を想起する。 2 本時のめあてを把握する。 め ゴんの気持ちの移り変わりについて、自分の考えをノートに書こう。	「めあて」はわかりやすい言葉で提示しましょう。	

(4) 「よそう」の段階の工夫

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、既習事項や生活経験などに関連付けて、自分の考えをもたせることが大切です。

子どもの思考	指導のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どんな方法が考えられるだろう。」 ○ 「〇〇してみたらどうなるだろう。」 ○ 「きっとこうなるだろう。」 ○ 「どんな準備をすればいいだろうか。」 ○ 「昨日のやり方でやってみよう。」 ○ 「前に友だちがやっていたやり方で試してみよう。」 ○ 「～を使ってやってみよう。」 <p style="text-align: center;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項に着目させたり、既習事項との関連を説明したりすることで、「やってみたい、わかるようになりたい。」という気持ちを高めることが大切です。 ○ 生活経験を振り返ったり、必要に応じて解決の方法や手順を具体物等で示したりして、おおよその結果をイメージさせることが大切です。 ○ 子ども一人ひとりが「めあて」を理解しているか確認し、「めあて」を踏まえて、自分の考えをもたせることが大切です。 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>【「よそう」の段階で予想が立てられない子どもへの支援（例）】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 60%;"> <p>〈教師の言葉かけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「～の方法でやれば、できるかもしれないね。」 ○ 「～のように調べれば、何か決まりが見つかるかもね。」 ○ 「このあたりから調べるとわかるんじゃないかなあ。」 ○ 「前に～と考えてできたから、同じように～してみたらどうかな。」 <p style="text-align: right;">など</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  </div> </div>	

(5) 「たしかめ」の段階の工夫

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、ペアやグループ、一斉などの活動を効果的に取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることが大切です。


① 様々な学習形態

	メリット	デメリット
個別学習	○ 子ども一人ひとりが粘り強く課題に取り組むことが期待できる。	● 自力追究でそれぞれの能力に応じて取り組めるが、学力差が出やすい場合がある。
ペア学習	○ 話すことへの抵抗が少なくなったり、自分の考えとの共通点や相違点などを見つけやすくなったりすることで、活発な発言が期待できる。	● 学力の差によって、理解が深まらない場合がある。
グループ学習	○ 友だちの考えを理解したり、自分の考えを深めたりすることが期待できる。 ○ 練り上げられた意見が期待できる。	● 学習の目標が明確でないと、単なる意見交流だけに終わり、話し合いが深まらない場合がある。
一斉学習	○ 教師と子どもたちとのやり取りから、ねらいの達成が期待できる。	● 子どもが受け身になってしまう場合がある。

② 発達の段階に応じて育てたい力

	低学年	中学年	高学年・中学生
話す力	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧語で話す。「～です。」「～した。」 ・返事をきちんとする。 ・進んで発言する。 ・聞かれたことに最後まで答える。 ・大事なことを選び、順序を考えて話す。 ・相手に伝わる音量ではっきり話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた大きさの声で話す。 ・話の要点が伝わるように、結論を先に短く言う。 ・つなぎ言葉を使って話す。 ・大事なことを落さないように、メモをもとに話す。 ・聞いたことを繰り返したり、まとめたりして話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や場に応じた適切な言葉遣いで話す。 ・聞き手を納得させるような根拠を示しながら話す。 ・考えたことや自分の意図が伝わるように話の組み立てを工夫して話す。
聞く力	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の時間、人の話をしっかり聞く。 ・事柄の大事なことや順序を押さえながら聞く。 ・自分の考えとの相違に気付きながら聞く。 ・質問することを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言いたいことを聞き取る。 ・要点を聞き取り、感想をもちながら聞く。 ・メモを取りながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図をつかみながら聞く。 ・友だちの考えのよさや友だちの意見を聞いて変わった自分の考えを書く。(メモする。)
話し合う力	<ul style="list-style-type: none"> ・話題から外れずに話し合う。 ・一つの話題をめぐる、少し長い対話ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合う。 ・話題や課題を意識しながら話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たによりよい考えを生み出そうと積極的に話し合う。 ・自分の意見を述べるときには、根拠や例を挙げたり仮定を用いたりして説得力のある話し方をする。

③ 主体的・協働的な学習を充実させるための話型（例）

低学年	中学年	高学年・中学生
<p>【もともになるはなしかた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はい、・・・です。 ○ はい、・・・だとも思います。 ○ どうしてかという、・・・だからです。  <p>【たずねるとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうして、・・・なのですか。 <p>【くわしくはなすとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はじめに、・・・をしました。 ○ つぎに、・・・をしました。 ○ さいごに、・・・をしました。 	<p>【もともになる話し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はい、・・・です。 ○ はい、・・・だと思います。 ○ 理由は～だからです。 <p>【話し合うとき】</p> <p>〈反対〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんは、・・・だと言いましたが、わたしは、・・・だと思います。 ○ 理由は～だからです。 <p>〈付け足し〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんにつけたして、・・・です。（と思います。） ○ 理由は～だからです。 <p>【たずねるとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんの考えは、・・・ということですか。 ○ ・・・だと言いましたが、たとえばどんなことですか。 <p>【くわしく話すとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1つ目は、・・・です。 ○ 2つ目は、・・・です。 ○ 例えば、・・・です。 	<p>【もともになる話し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はい、・・・です。 ○ はい、・・・だと思います。 ○ 理由は、例えば、（1点目、2点目、3点目）・・・だからです。 <p>【話し合うとき】</p> <p>〈反対〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんは、・・・だと言いましたが、わたしは、・・・だと思います。 ○ 理由は、例えば、（1点目、2点目、3点目）・・・だからです。 <p>〈付け足し〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんの考えに付け足して、・・・です。（と思います。） ○ 理由は、例えば、（1点目、2点目、3点目）・・・だからです。 <p>〈深まり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんの意見を聞いて、・・・だとわかりました。 <p>〈まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんの意見をまとめると、・・・ということだと思います。 <p>【たずねるとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～さんの考えは、・・・ということですか。 ○ ・・・だと言いましたが、例えばどんなことですか。 <p>【くわしく話すとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1点目については、・・・です。 ○ 2点目については、・・・です。 ○ 例をあげれば、・・・です。

④ 主体的・協働的な学習を充実させるために身に付けさせたい力

言いかえる	友だちの発言を聞いて、同じ内容でも自分の表現方法で発言する。
付け加える	友だちの発言に考えを追加する。
質問する	わからないことがあるときや自信のないときに友だちに聞く。
異なる意見を表明する	友だちの意見を聞く、自分の考えを根拠をもって発言する。
よりよくする	不十分な説明を条件を満たしたよりよい説明にできないか考える。
関連付ける	既習の何が使えるか、何を使っているかを話す。
比べる	複数の考えが出た場合、どの考えがいいかを見つける。
変容・意見を表現する	自分の考えが変わったり、学びが深まったりしたことを発言する。

(6) 「まとめ・振り返り」の段階の工夫

子どもが主体的・協働的に学ぶためには、「めあて」と正対した「まとめ」を行うとともに、類題や発展的な問題などを効果的に取り入れ、「何がわかったか。」「何ができるようになったか。」を実感できるようにすることが大切です。

まとめのポイント

- ・「めあて」と正対した「まとめ」を行い、子どもに学習の成果を実感させる。
- ・解決された内容を確認したり、類題や発展的な問題などを効果的に取り入れたりしながら、今日の授業で何ができたか、何が身に付いたのかを明確にする。
- ・子どもの疑問を次時につなげる。

コラム

～学びをより確かにするノート指導～

【ノートに記入する基本的な項目】

- ① 日付・教科書のページ
 - ・学習の記録として、日付を書く。
- ② 学習課題（学習のめあて）
 - ・その時間の目標、学習課題（学習のめあて）を書く。
- ③ 授業（板書）記録
 - ・授業でわかったことをノートに書く。
 - ・授業でできたことをノートに書く。
 - ・友だちの意見でよい考えだと感じたことをノートに書く。
 - ・よく分からなかったことやもっと調べたいことなどをノートに書く。



※ 「前の時間はどんなことを学習したのかな？」と教師が聞いたとき、子どもが自分のノートで確認し、振り返りができるような書き方を工夫する。